

# 在日外国人への介護職員初任者研修からの一報告

鈴木 淳 子

## 1. はじめに

内閣府・平成 30 年度版高齢社会白書によると我が国の総人口は、平成 29 年 10 月 1 日現在 1 億 2, 671 万人である。65 歳以上の高齢者人口は、3,515 万人となり高齢化率 27.7 %である。平成 48 (2036) 年には、33.3 %で 3 人に 1 人が高齢者となる時代がくると言われている。

65 歳以上の人口と 15 歳～64 歳人口の比率は、昭和 25 (1950) 年には 1 人の高齢者に対して 12.1 人の現役世代 (15～64 歳の者) がいた。しかし、平成 27 (2015) 年には、2.3 人になっている。今後、ますます高齢化率は上昇を続け、現役世代の割合は低下する。平成 77 (2065) 年には、高齢者 1 人に対して 1.3 人の現役世代という比率になる<sup>1)</sup>。

経済的にも社会的にも影響を与えることの 1 つとして平成 30 年 7 月の福祉分野の有効求人倍率は 4.65 倍<sup>2)</sup>となっている。慢性的で深刻な人材不足である。

このような状況下で厚生労働省は、「介護離職ゼロ」の実現に向け介護サービスの基盤整備とともに、介護人材の確保が課題である。2025 年には約 38 万人の介護士不足が生じると推計される<sup>3)</sup>ため、外国人の介護分野への受入れが始まっている。

## 2. 研究動機・目的

筆者は、日本人の配偶者をもつ在日外国人女性たちが中心となる介護職員初任者研修の講師を勤めている。研修の詳細は、研修時間（週1回7時間から9時間を16日間・計130時間）受講料8万4240円（テキスト代込み）である。

今回の研修は、18名（男性1名・女性17名）が受講した。約8割の女性が介護現場や病院で看護助手として就労し、研修中も居眠りもなく積極的に研修に臨んでいた。

彼らが介護の仕事に就き受講料を払い、研修を受講する動機や資格取得に対する気持ち・日本語能力などの現状と課題について調査した。

## 3. 外国人介護従事者の受け入れ体制

### （1）法的整備

外国人の受入れについては、平成28年11月18日、「出入国管理及び難民改定法の一部を改正する法律」が成立した。1. 在留資格の「介護」の創設 2. 偽装滞在者対策の強化である<sup>4)</sup>。残留資格を留学生として大学や専門学校等の介護福祉士養成コースを修了し、国家試験に合格すれば残留可能年数に制限はなく永住できる。日本語能力試験にハードルがないためか全国の介護の専門学校などでは留学生が急増中である。

日本介護福祉士養成施設協会によると、平成13年に21人だった留学生は、平成29年には591人と約28倍に増えている。ベトナム人が364人と最も多い。次に、中国・ネパールと続く。日本人の入学生は約6700人であり、10年前の半分以上になっている<sup>5)</sup>。

平成29年11月1日には「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」（平成28年法律第89号）の施行にあわせ、外国

人技能実習制度の対象職種に介護職種が追加された<sup>6)</sup>。介護現場に人手不足の改善が期待される一方、介護の質が問われる。上記の2つ以前には、経済連携協定（Economic Partnership Agreement:EPA・以下 EPA という）においては、平成20年度から日・インドネシア EPA、21年度には日・フィリピン EPA、平成26年度には日・ベトナム EPA において外国人看護師・介護福祉士候補者の受入れを実施してきた。累計受入れ人数は3国併せて3492人である（平成29年9月1日時点）<sup>7)</sup>。

## （2）国家試験結果

第30回（平成29年度）介護福祉士国家試験全体の受験者数は、92,674人中65,574人であり合格率は70.8%であった。EPA 介護福祉士候補者の合格率は50.7%であった。合格者は、インドネシア人161名中62名（合格率38.5%）・フィリピン人164名中62名（37.8%）。ベトナム人は、95名中89名（93.7%）高い合格率となった<sup>8)</sup>。

## （3）EPA 受け入れに対する意見

角田（2015）によると EPA 介護福祉士候補者の受入れた介護の現場では、仕事に真摯に取り組む候補者の態度に日本人職員が刺激を受け、職場の活性化につながったこと等が肯定的に評価されている<sup>9)</sup>。重ねて患者・利用者やその家族の多くも、EPA 介護福祉士候補者による介護におおむね満足しているとの調査結果がある<sup>10)</sup>。しかし、EPA の目的は経済活動の連携であり介護現場の労働不足を補うための制度ではないため外国人介護士が増加することは期待できない。重ねて入国後の支援や国家試験や合格率に対しても課題が多いが介護サービス全体においては一部の施設の問題である。

## （4）在日外国人のホームヘルパー取得と実態

高畑（2010）によると、在日10年程度かつ40代に近づいた在日フィリ

ピン人やブラジル人が2006年ごろから介護資格（ホームヘルパー2級・現在の介護職員初任者研修）を取得する人が増えた。多くは、興業労働者として来日した後、日本人男性との結婚を経て定住した人々である<sup>11)</sup>。という。以前、筆者が担当したホームヘルパー2級研修では、愛知県内の大手メーカーの世界同時不況による影響で工場を解雇された在日ブラジル人派遣労働者が介護分野へ転職するために資格取得を目指していた。

現在、病院で看護助手や介護現場で就労している外国人介護士も多く見かけるが、無資格者であることも多い。彼らは日本語を使用した日常会話やコミュニケーションは可能であるが、日本語の読み書きの能力や特に漢字や介護に必要な専門用語については困難である。

実際に、筆者が研修を担当し訪問介護の仕事に就きたいが、連絡ノートの内容が理解できない事や申し送り等が記録できないため就労できなかった事例もあった。角田（2017）によると、日本における介護分野の外国人職員は3500人ぐらいと見込まれている。そのうち国別ではフィリピンが42%を占めている。多くの場合、介助はほぼこなしているが、会議への参加、記録に課題がある<sup>12)</sup>との事である。

わが国においてホームヘルパーと呼ばれている資格である訪問介護員は1989（平成元）年にゴールドプランの中で発足した。2006（平成18）年には介護職員基礎研修も開始され、様々な研修や資格が存在していた。現在では、2013（平成25）年より介護人材のキャリアパスの明確化や介護人材の定着化を図るために介護職員初任者研修として一本化されている。

#### 4. 倫理的配慮

アンケート実施前に、口頭で結果を学会発表などの研究に使用すること。それ以外は使用しないことや答えたくないことは未記入で良いこと、無記名で構わないことを口頭で説明した。質問紙の文頭にも平仮名で記入した。

## 5. 調査方法

平成 29 年 10 月 X 日の研修修了時、受講者全員に基本属性および質問紙及び聞き取り調査を中心に実施した。

## 6. 結果

質問紙の回答である。①介護の仕事に従事しているのは、受講生 18 名中 14 名であった。

②就労場所は老人ホーム 5 名・デイサービス 2 名・グループホーム 2 名・ショートステイ 1 名・病院 1 名・無回答 3 名であり、様々な介護現場で就労していた。

表 1 質問紙の内容（原文のまま平仮名で作成）

①かいごのしごとをしていますか
②かいごのしごとをしているひとにおきします。どこではたらいしていますか。
③かいごのしごとをしていないひとにおきします。かいごのしごとをやりたいですか？
④しごとでこまっていることやむずかしいことがあればおしえてください。
⑤しょにんしゃけんしゅうをうけたりゅうをおしえてください。
⑥じつむしゃけんしゅうやかいごふくししをめざしたいですか？
⑦このけんしゅうであたらしくおぼえたかいごのことがあればかいてください。
⑧にほんごのうりよくけんていをうけたことがありますか。はいとこたえたひとにおきします。どのランクをうけましたか。
⑨じぶんのにほんごのうりよくについてあてはまるものに○をうってください。
⑩インターネットをつかった「かいごのかんじのサポーター」などのサイトをしていますか？ 「はい」とこたえたひととはみたことがありますか。

③介護の仕事に従事していない4人の中で介護の仕事をやりたい人1名おり、「はいやりたい」と平仮名で回答があった。1名は「imanotokoro Mada shinai desu」とローマ字で回答であった。残りの2名は無回答であった。

④仕事上で困っていることや難しいことについては「KANJI YUMIMASENDESHIGOTO TAIHEN DESU」や「むずかしい日本語と人間の関係むずかしいところがあります」「おなじしょくばではたらいてたひとたちかってなこどうおおいこと」「たまにいじめるひとあります」などの回答があった。職業病の一つである腰痛や夜勤、介護技術などの回答は無かった。介護現場で働いている14名中8名が無回答であり、仕事上での困難さについて知ることができなかった。

⑤初任者研修の受講動機は、介護の仕事をしている14名中13名が「SHIGOTO NO TAME・BENKYOU SHITAI」「おぼえたい」「自分のため」といった前向きな回答があった。仕事をしていない3名からも「ライセンスとりたい」「べんきょうしたい」「しごとのため」と前向きな回答があった。

⑥実務者修や介護福祉士をめざしたいかについては、6名から「まだわからない」「まだ悩んでいる」「まだ考えていない」との回答があった。4名は「いつか」3名から「はい」との回答であった。

現在は、国家資格にはそれほど関心がない受講生と将来はキャリアアップしたいと考えている受講生がいることがわかった。

⑤⑥の自由記述回答から追加検討を行った。分析方法として、(1)自由記述から抽出語の出現回数を把握する。(2)(1)の結果をカテゴリー化し、次の結果となった。

- \* 仕事に対する前向きな気持ち
- \* 勉強に対する前向きな気持ち
- \* 現在は、国家試験に対してそれほど関心がない。
- \* 将来、キャリアアップしたいという気持ち

⑦ 18 名中 3 名の回答は、新しく覚えた言葉ではなく「KAIGO NO SHIGOTO SHITA KOTOARIMASUKEDO TADASHIKOTO MOTTO BENKYOUSHI MAMASITA ARIGATO GUZAIMASHITA!!」「wakatta kotoga kaigono shigoto muzukashitoomoimasukimoti nakattarashigoto dekinaidesu」「NIHONGOHO OBOETAI」と介護に対する思いがローマ字で記入されていた。「老老介護」6 名・「認知症」「にんちしょう」3 名・「りょうしゃ」2 名・などの回答があった。基本的な介護用語を知らず介護の仕事をしている様子が伺えた。4 名が無回答であった。

⑧ 日本語能力試験を受験したことがある受講生は 18 名中 3 名いた。3 名とも「N2」「N3」「N4」にそれぞれ合格していた。

⑨ 自分自身の日本語能力については、あてはまるものに○をうってもらう形式とした。下記の結果となった。

表 2 自分自身の考える日本語能力

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ N 1・・・はばひろいせいかつてのなかでつかわれる<br/>にほんごはりかいできる。1 名</li><li>・ N 2・・・にちじょうせいかつてつかうにほんごはりかいできている。2 名</li><li>・ N 3・・・にちじょうせいかつてつかうにほんごはだいたいりかいできている。<br/>3 名</li><li>・ N 4・・・きほんてきなにほんごはりかいできている。4 名</li><li>・ N 5・・・きほんてきなにほんごはだいたいわかる。5 名</li><li>・ 複数回答 1 名</li><li>・ 無回答 2 名</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

⑩『介護の漢字のサポーター』などのサイトを知っている受講生は 18 名中 6 名であった。実際に閲覧したことがあるのは 1 名のみであり、「みたよ」と記述されていた。介護の仕事に必要な漢字に対して関心の低さが示唆された。

## 7. 介護の仕事に必要な日本語能力について

平成 30 年度の EPA 看護師・介護福祉士候補者の受入れにおいてインドネシア人は、6 か月間の訪日前日本語研修を受講した後に、日本語能力試験 N 5 程度以上の日本語能力を有する者のみが日本への入国を許可される。フィリピン人は、マッチングが成立した候補者に 6 か月間の訪日前日本語研修を受講した後、日本への入国を許可される。ベトナム人の受入れでは、12 か月間の訪日前日本語研修後、日本語能力試験 N 3 以上に合格している者及び研修免除者（N 2 以上取得者）が入国の要件<sup>13)</sup>である。EPA 入国要件のベトナム人の日本語能力レベルと受講生の考えている自己評価での日本語能力レベルは、同程度となった。

角田（2017）によると介護現場で必要とされる日本語能力レベルは、施設の約 9 割が、日本語能力試験 N 3 レベル以上を考えている<sup>14)</sup>。との事である。しかし、布尾（2017）は日本語能力試験が介護の専門日本語の能力を測定できるわけではないという点に重点を置いている。日本語能力試験は、聞く・読むのみの選択式の試験であり、「話す」「書く」技能は測定できない。業務上の口頭でのやりとりや介護記録を書く作業などがどの程度できるかが問えないわけである。介護の日本語能力の評価基準の開発が必要になる<sup>15)</sup>ことを指摘している。

## 8. 受講生の日本語能力からの考察

在日外国人受講生の中には、EPA 制度を知っている者がいた。「あれは、エリートの人ね、私は無理」と話していた。後に行った研修では、50 代の在日 18 年のフィリピン女性がいた。彼女は、アメリカ人の配偶者を持ち看護師免許取得していた。彼女の受講理由は、「看護師免許を生かして介護の仕事に就こうと考えている。しかし、夫がアメリカ人であるため、



日常会話は英語であり日本語が上手くならない」と話してくれた。彼女の日本語能力は、他の受講生に比べ会話能力が低く平仮名もほとんど書けなかった。

布尾（2017）は、外国人介護士が、日本で生活しながら介護の仕事をして、国家試験に合格するためには①生活の日本語②業務の日本語③国家試験の日本語を身につける必要がある<sup>16)</sup>。としている。①生活の日本語については、受講生の多くは、日本人の配偶者を持ち定住年数も重ねて大きな問題はなく生活している人ばかりであった。②業務の日本語になると「きろくがわからないこと」「かんじむずかし」など業務中の苦勞が質問紙からも読み取れた。研修中のノートもローマ字記入をしている受講生が多く見られ、黒板にも必ず平仮名を打つことを求められた。この質問紙調査においても、全回答がローマ字で記入してある受講生が18名中5名いた。

神村・野村（2017）は、介護現場における円滑なコミュニケーションを図るためにオノマトペが多く使用されることに着目した。外国人介護士がわからないオノマトペは、利用者からの痛みの訴えジンジン・チクチク・チクッ（とする）への不理解や介護者間での作業の指示においてささっ（とやって）などあることが示されている<sup>17)</sup>。

③国家試験の日本語については、介護福祉士国家試験のために布尾ら（2015）のグループが開発した漢字語彙学習ウェブサイト『介護の漢字サポーター』や『介護のことばサーチ』のサイトがある<sup>18)</sup>。実際に閲覧した受講生は1名のみであり、活用されていないのが現状である。

在日外国人が介護福祉士の国家試験を受験するためには、（1）介護福祉コースの2年間専門学校・短期大学や4年大学を卒業する。もしくは（2）実務経験3年以上＋実務者研修450時間修了することが受験資格となっている。在日外国人が学校で学ぶことは少ないと思われるため（2）の場合が多いと考える。学費や介護現場で働きながら研修を受けるため時間の確保も課題である。そこで通信課程の選択肢もあるが、在日外国人にはレポート課題が難関になるであろう。

在日外国人が介護の仕事をするには、入管法やEPAと雇用状況が異なる。結城（2014）によると、都内の某特養ホームでは、全介護士のうち約2割を在日外国人で賄っている。全てが初任者研修修了の有資格者であり数年間継続して働き続けている。しかし、「言葉」の問題や「文化」の違いから高齢者や職員間のコミュニケーション不足から数ヶ月で辞めてしまう人もおり、日本人よりも離職率が高い。数年間働き続けている介護士らは、「人」との関わりと「介護」という仕事に誇りをもっている。しかし、在日外国人の中には、上司の指示を理解していなくても、返事をする者もあり業務を充分に認識しておらず問題が生じることもある<sup>19)</sup>ことを述べている。

在日外国人が介護現場で長く就労するためには、日本人スタッフと良好なコミュニケーションを図ることである。そして介護業務に必要な日本語を覚えていくことやわからないことは質問できる環境が必要である。そのためにも日本人スタッフとの相互理解が一番大切である。

例えば、フィリピンでは10月に「フィリピン高齢者のための週間」を国民が祝い、社会における高齢者の役割に対する認識を深めるために各地でイベントが開かれるそうだ。現在も、若者が高齢者を敬う習慣が残っている<sup>20)</sup>。このような気持ちは在日フィリピン人も強く持っており、初任者研修中の発言や会話からも感じ取れる。日本人介も外国人介護士から学ぶ姿勢も大切にしなければならない。

## 9. まとめ

在日外国人である受講生のほとんどが、前向きな気持ちを持って介護職員初任者研修に臨んでいた。受講生の半分は実務者研修や国家資格へのキャリアアップの気持ちも持っていた。

介護現場で仕事をするためには、日本語能力試験でN3レベル以上が必要と考えられている。しかし、受講生たちの半数が自己評価さえもN3レ

ベルに達していない現状であった。国家試験に合格するための介護に関する専門用語の日本語能力も必要であるが、日本語能力試験とは分野が異なる。そのため、自分自身で国家試験の勉強法を身につける必要がある。日本人のスタッフとコミュニケーションを図り、介護業務に必要な日本語や漢字を学び覚えること。又、わからないことは気軽に質問できるような環境が必要である。

わが国の生産年齢人口の減少からみても、在日外国人介護士の活躍は期待したい。

日本人スタッフと外国人介護士が連携し、利用者にとって質の高いケアが提供できることが大切である。

## 10. おわりに

本研究は、筆者が18名の在日外国人に対して行った介護職員初任者研修を通して、受講生と良好な関係を築くことからできた調査の一報告である。

今後は、研修修了後における知識や技術に対する気持ちや国家試験への意欲など具体的にインタビュー調査を課題としたい。

### 引用文献

- 1) 内閣府「平成30年度版高齢社会白書」[www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/30pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/30pdf_index.html)
- 2) 中央福祉人材センター「平成30年7月福祉人材センターバンク・職業紹介実績報告」  
[file:///C:/Users/suzuk/AppData/Local/Packages/Microsoft.MicrosoftEdge\\_8wekyb3d8bbwe/TempState/Downloads/toukei3005.pdf?Ra-£%20\(3\).pdf](file:///C:/Users/suzuk/AppData/Local/Packages/Microsoft.MicrosoftEdge_8wekyb3d8bbwe/TempState/Downloads/toukei3005.pdf?Ra-£%20(3).pdf)
- 3) 厚生労働省「福祉・介護人材確保対策等について」  
<https://www.mhlw.go.jp/topics/2016/01/dl/tp011502p.pdf#search=%27E5%8E%9A%E7%94%9F%E5%8A%B4%E5%83%8D%E7%9C%81+%E4%BB%8B%E8%AD%B7%E5%A3%AB%E4%B8%8D%E8%B6%B3%27>

- 4) 入国管理局「出入国管理及び難民認定法の一部を改正する法律による在留資格『介護』の新設に係る特例措置の実施について」  
[http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri07\\_00119.html](http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri07_00119.html)
- 5) 中山梢：「外国人・介護の担い手」『中日新聞』：27 頁，2017 年 10 月 30 日朝刊。
- 6) 厚生労働省「外国人技能実習制度への介護職の追加について」  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000147660.html>
- 7) 厚生労働省「インドネシア、フィリピン及びベトナムからの外国人看護師・介護福祉士候補者受入れについて」  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/gaikokujin/other22/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/gaikokujin/other22/index.html)
- 8) 厚生労働省「第 30 回介護福祉士国家試験における EPA 介護福祉士候補者の試験結果」  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000199604.html>
- 9) 角田隆：「EPA 介護福祉士候補者受入れ開始から 8 年定着し、評価も高い外国人介護士」『介護保険情報』188 号：30－33 頁，2015 年。
- 10) みずほ情報研究所「経済連携協定（EPA）に基づくに基づく介護福祉士候補者受入れ施設の配置基準に関する調査・研究報告書」  
[https://www.mizuhoir.co.jp/case/research/pdf/epa2013\\_02.pdf](https://www.mizuhoir.co.jp/case/research/pdf/epa2013_02.pdf)
- 11) 高畑幸：「興業から介護へ～在日フィリピン人、日系人、そして二世世代への経済危機への影響」『移民政策学会ミニシンポ抄録』2010 年。
- 12) 角田隆・榎本芳人：「外国人介護士の現状—医療介護福祉政策研究フォーラム（2017 年 4 月 20 日）に参加して」『福祉のひろば』：42－47 頁，2017 年。
- 13) 平成 30 年度版「EPA に基づく外国人看護師・介護福祉士受け入れパンフレット」  
[https://jicwels.or.jp/files/EPA\\_H30\\_pamphr.pdf#search=%27%E5%B9%B3%E6%88%9030%E5%B9%B4%E5%BA%A6+EPA%E5%8F%97%E5%85%A5%E3%82%8C%E6%9D%A1%E4%BB%B6%27](https://jicwels.or.jp/files/EPA_H30_pamphr.pdf#search=%27%E5%B9%B3%E6%88%9030%E5%B9%B4%E5%BA%A6+EPA%E5%8F%97%E5%85%A5%E3%82%8C%E6%9D%A1%E4%BB%B6%27)
- 14) 12) 再掲
- 15) 田尻英三編 布尾勝一郎：「外国人看護・介護人材の日本語教育」『外国人労働者受け入れと日本語教育』：135－147 頁，ひつじ書房，2017 年。
- 16) 15) 再掲
- 17) 神村初美・野村愛：「介護のオノマトペの背景とその機能に関する一考察—介護職員および EPA 候補者へのヒアリング調査を通して」  
『第 19 回専門日本語教育学会研究討論会誌』：8－9 頁，2017 年。

在日外国人への介護職員初任者研修からの一報告

18) 15) 再掲

19) 結城康博：「外国人介護士受け入れの考察」『週間社会保障』2772 巻：50－5 頁，2014 年.

20) 高齢者を大切にするフィリピン・ホスピタリティ

<https://www.nippon.com/ja/features/c02810/>